

# 学力向上に向けた校内研究の取組

白石市立福岡小学校

## 1 平成30年度の校内研究の成果と課題

- 全校児童が「書き込みノート」や「一人読み」の仕方を理解し、主体的に教材文に関わり自分の思いや考えをもつことができるようになった。
- ハンドサインを用いた話し合いは、互いの話を聞き逃さぬように聞こうとすることで相互指名や教師の意図的指名へつながり、教材を深く学ぶ上で有効であった。
- 児童が与えられた項目だけを書き込むのではなく、さらに主体的に新しい文章と関わる力が身に付くように、段階を踏んで指導していく必要がある。
- 児童が考えを練り合う場面では、教師主導の意図的指名か児童の相互指名か見極めて指導していくことが必要である。今後、高学年では自由起立発言ができるように粘り強く段階を踏んで指導していく。

## 2 校内研究での取組

### (1) 研究主題，副題

「分かる喜びを感じ，自ら学ぶ児童の育成」

～算数科における児童の振り返りを大切にしたい授業づくりを通して～

### (2) 目指す児童像

低学年	本時の目当てを理解して学習に取り組み，自分の言葉で振り返ったり，分かる喜びを感じたりできる児童。
中学年	自分の目当てをもって学習に取り組み，考えた過程や答えを見つけたきっかけなどを自分の言葉で振り返ったり，分かる喜びを感じたりできる児童。
高学年	自分の目当てをもって主体的に学習に取り組み，学びのプロセスを振り返ったり，分かる喜びを感じたりできる児童。

### (3) 取組の概要

- ① 2つの研究の視点を設定し，その視点に基づいた具体的な手立てを考え，実践する。
  - 〔視点1〕 学びの足あとを確かめる振り返りの設定
  - 〔視点2〕 適用や活用につなげる指導過程の工夫
- ② 全学年1授業を公開し，算数の指導力の向上を目指す。

## 3 学力向上に向けた校内研究の重点目標

- (1) 算数科において，学習のねらいを明確にし，児童一人一人を大事にした授業づくりを工夫することで，分かる喜びを感じ，自ら学ぶ児童の育成を目指す。

### □ 成果目標

- (1) 12月実施の学力調査で，全学年とも算数科で4観点の正答率が全国平均と同程度となるようにする。
- (2) 児童を対象としたアンケートで，「算数の授業がよく分かる・だいたい分かる」と回答する児童の割合を90%以上とする。

### ◇ 行動目標

- (1) すべての授業で『大切にしたいこと』を徹底する。(第1回研究全体会にて提案)
- (2) 学びの定着を図る学習環境を整備する。
- (3) 学びを支える家庭との連携(\*「福岡小パワーアッププラン」発行)を強化する。